



実習で使った訓練人形のパーツを洗濯して日陰干し…消防学校の風景の一つです



「消防学校ニュース」

今年も残りわずか…
最後まで全力疾走!!
教育訓練に燃えています…



平成 29 年 12 月 27 日発行

消防職員専科教育

予防査察・危険物科 (第2期)

12月6日(水)、県内16の消防本部(局)から46名が入校しました。
この課程は、更なる専門性の向上や専門知識の充実・拡大を目的に、従来の「予防査察科」と「危険物科」を発展的に統合し、昨年度から「予防査察・危険物科」としたものです。
目指すべき目標は、査察行政、危険物行政の現状と課題をしっかりと認識すること、与えられた権限を正しく理解し、正しく執行できるようになること、業務に必要な専門的知識を修得し、是正指導、違反処理等を適切にできるようになること。これらを念頭に、業務に生かすことを常に意識しながら、3週間にわたる課程に臨みました。

入校式



今回の課程は、八教科、二十を超える課題によりカリキュラムを編成し、県内消防本部をはじめ、大変多くの講師の皆さんにお世話になりました。心よりお礼を申し上げます。



合同聴講
田舎消防の情熱
岐阜市消防本部
藤井浩平氏

危険物化学 (概論・実験)

紙谷透 講師



事例



研究



査察実習

横浜市消防局
杉村友希氏
高瀬彰久氏



12月22日(金)、46名の第2期生は全員無事に課程を修了した。教育訓練中、事務処理等に係る専門的な知識はもとより、査察実習等を通じて、より具体的かつ高度な理論、技術も修得し、更には、盛んな意見・情報交換により第2期生の間でネットワークも築いた。ここで得たものをフルに活用して、職務の的確な遂行に努めてもらいたい。



12月19日(火) 午前8時25分

新人と先輩 初のコラボ

「国旗にかしらあ中」

通常点検(合同)

【第2小隊】
初任科(第88期)39名 事故なし



【第1小隊】
予防査察・危険物科(第2期)46名 事故なし



点検者:校長 指揮者:松井 宏章(駿東伊豆) 予防査察・危険物科(第2期)総代

初任科第88期 訓練納め...しかし、まだまだ折り返し地点

立体的火災防ぎょ活動



消防活動訓練



中継送水～ホース展長

12月後半、初任科第88期生たちは平成29年の訓練納めが間近に控える中、厳しい寒さや風にも負けず、実科訓練に励んでいます。訓練は、より実践的な内容になってきました。「基本」プラス「応用」が必要です。

10月からスタートした6か月間の教育訓練、その中間(折り返し)地点です。初任科生たちにとって、時の流れは速いのでしょうか、それとも遅いのでしょうか…。



機器取扱訓練

濃煙熱気区画への進入

消大レポート

第3弾!!

消防大学校 危機管理・防災教育科 消防団活性化推進コース（第3回） 研修報告

平成29年12月11日（月）
～12月15日（金）
教育日数 5日
教育時間数 32時間

【授業科目】

日本消防協会の役割、消防団と地域防災、教育訓練の改善、女性活躍、加入促進、教育技法、安全管理、指揮訓練、図上訓練、課題研究



死者約32万人、経済被害約220兆円

今後30年以内に70%程度の高い確率で発生すると予測される南海トラフを震源域とするマグニチュード(M)8以上の大地震、頻発する記録的大雨、木造建築物密集地域における大規模火災など、常備・非常備を問わず、我々消防人を取り巻く環境は緊迫感・切迫感に満ちています。

そのような中、地域防災力の中核として欠くことのできない消防団は、充実強化が進められる一方、団員数の減少、サラリーマン化、高齢化等様々な問題、課題を抱えています。

消防団活性化推進コースでは、全国から集まった消防団事務関係者、教育関係者がその状況を認識し、様々な角度から考察し、改善を図ることを目的としています。

今回は、行政職員や、女性を含む23歳から55歳の入校生38名が、年齢・性別・役職を問わず、同期として消防団に関する様々な問題に取り組むとともに、親睦を深めました。

主査 永田 佳寛
(磐田市消防本部から派遣)



指揮シミュレーション訓練



目まぐるしく変化する状況がモニターに表示される。



署と団の2つのブースに分かれ活動する。それぞれの特性を生かして連携した活動を目指す。



地図上に出勤車両を配置し、災害状況を書き込み、可視化する。



ホワイトボードに時系列、出勤隊、災害状況等を端的に記載する。

課題研究・発表会



事前に持ち寄った研究テーマを基にグループ分けされ、それぞれのグループで情報交換、研究を進める。研修期間中に受けた講義内容を踏まえ、消防団の実情について、全国的傾向と地域ごとの諸課題の多様さが浮き彫りになっていく。あの手この手を考えて自分達の改善策を練り上げその成果を発表した。



「教育技法」

教育＝科学
消防団の教育訓練に生かせるほか、子育て、更には人生にも役立つ。

「消防団と地域防災」

災害時には「自助」「共助」と言われるが、そもそも「自助」ができていない。その結果、それらの支えの上にある「共助」が機能しない。消防団の課題の背景にある本質的なものに着目した。

「加入促進」

消防団活性化及び加入促進について先進的な取組を行っている消防団団長を講師に迎え、その柔軟かつ地域と消防団、消防署と消防団とのWIN-WINな発想は学ぶべきものがあふれている。

お隣の「山梨県消防学校」視察レポート



12月11日(月)、坂口副校長をリーダーに、訓練施設整備に関わる教務課、総務課のメンバーでお隣の山梨県消防学校に行ってきました。山梨県消防学校(山梨県中央市今福)は、平成27年に施設を新築・移転した新しい学校です。最新の訓練施設を多数保有しており、本校における訓練施設の導入や管理運営の参考とするために視察を実施しました。その概要を報告します。

本県でも最新型が欲しい!!

何でもできそう



総合訓練棟

山岳救助訓練施設

内部にエレベーター、濃煙迷路、防災センター、消火訓練施設、各種消防設備等が設置され、様々な訓練や講義に使用できる設備です。
手前の斜面は『山岳救助訓練施設』で、山梨県内の山岳の斜度や道路の法面の材質まで考慮して設計されています。

火災濃煙熱気消防訓練設備



戸建ての住宅を内部まで再現した訓練用家屋です。進入、検索、救出、放水など様々な訓練が実施可能で、家屋を移動して組み合わせれば街区の火災防ぎょ訓練も実施できます。
視察当日は、火災濃煙熱気消防訓練設備と同様、警防科の訓練で使用されていました。



施設内で木製パレットを燃焼させることにより、熱気や煙を発生させ火災性状を体験的に学ぶことができる設備で、山梨県のは消防大学校と同じタイプです。

視察当日は、警防科の訓練が実施され、訓練生は火災性状と放水要領について説明を受けた後、5~10名で内部へ進入、中性帯・ロールオーバーを体験しました。

建物火災時に近い状況を作り出し、実践に即した訓練が可能ですが、年間のランニングコストと定期的なメンテナンスが課題(山梨県)です。

夢の...移動できる一戸建て?



移動式模擬家屋



山梨県消防学校の中込校長をはじめ職員の方々、お世話になりました。



視察当日は、山梨の厳しい冷え込みを覚悟していましたが、午前中は予想外に暖かく拍子抜けしてしまいました。ところが、ハケ岳からの吹き下ろしが始まる午後は期待どおり(?)の寒さで、温暖な静岡のありがたみが身にしみました。

今回の視察では、山梨側から、施設的设计段階からのこだわりや、設置後に不満を感じていること、運用する上で気づいた問題点など、細かく丁寧な説明をいただき、大変参考になりました。

先月(11月)は、山梨側から本校の訓練を参考にしたいと視察に訪れています。今後も他県消防学校との交流を積極的に行い、様々な意見や情報、先進的な取組等を本校の教育訓練や施設の管理運営に取り入れていきたいと思ひます。



山梨では初任科以外の教育訓練は通学方式で実施され、昼食は仕出し弁当だそうです。